



1977年に創設されたハーベス社は1987年にアラン・A・ショーに受け継がれ工場も移転して新しい環境でスピーカー製作が開始された。そのハーベスがデジタル時代の到来を予見した技術的ノウハウを蓄積して完成させたのがスーパー・チューンド・ストラクチャーであり、その考えを具現化したのがSuper HL5である。今回はこのスピーカーを徹底的に聴きこんでみた。

ハーベスという社名はハーウッドのハーと愛妻エリザベスのベスを組み合わせて付けられた

TEXT 三井 啓

file.037
HARBETH
Super HL5
Speaker System

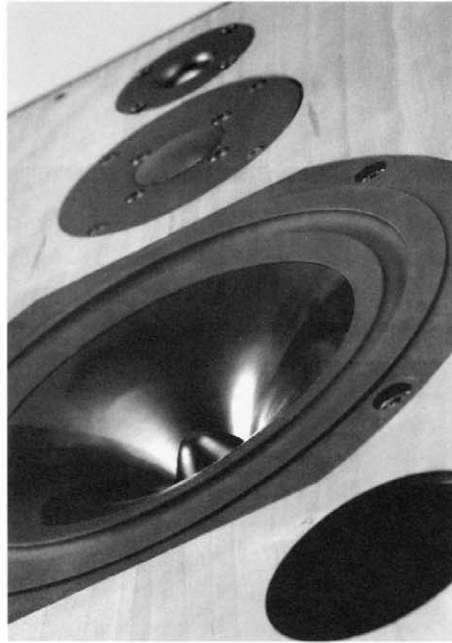
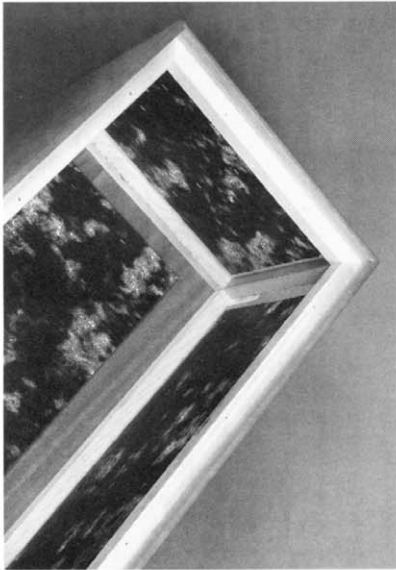


ハーベスというイギリスのスピーカーメーカーの名称は、筆者にとって忘れることのできない名称の一つだ。ハーベスという社名は、創業者H・ダッドリー・ハーウッドのハー(Har)と、彼の愛妻エリザベスのベス(beth)を組み合わせられて命名されたという話がある。このゆけか20数年たった今もはっきり記憶に残っているばかりでなく、ハーベ

ス社の最初のスピーカーで、日本に最初に輸入されたMonitor HLの素晴らしい音質が、今も耳に残って離れないからである。

もちろん、その頃はCDはまだなく、LP時代の全盛期で、スピーカーの音質を確認する最良のプログラム・ソースはLPであった。ハーベス社のスピーカーを聴いて耳から離れなかったソースの一つに、カメラータがベルリンで録音した「驚異のデュオ」ベルリン・フィルハーモニック・デュオのLPがあった。ベルリン・フィルのチェロ奏者イェルク・バウマンとコントラバス奏者クラウス・シュトールが1975〜6年に録音したアナログ録音で、その中の一曲「ロッシニ／チェロとコントラバスのための二重奏曲二長調」は筆者の仕事が始まると必ず鳴り出したものであった。チェロとコントラバスの量感豊かで、重みの力感のある重低音は、オーディオ機器の低音再生能力を確認させてくれたと同時に、オーディオの快感の一つである重低音再生の醍醐味を満喫させてくれたのである。この「驚異のデュオ」は、CD時代になると早速CDでも発売され、筆者の試聴ソースもLPからCDの「驚異のデュオ」に変わったが、筆者がハーベスのMonitor HLで「驚異のデュオ」を聴き、感動していた頃、イギリスで近くハーベス社を創立することになるハーウッドは、BBC研究所でスピーカーの

● 注目製品ファイル



フロントとリアのバッフルは取り外せる構造。内容積50ℓのエンクロージャは要所を特別な手法で処理している。使われているユニットも新素材がふんだんに採用されている

研究をしていた。
**ハーウッドはBBC
 モニターの研究、設計の中心的人物になっていた**

H・ダッドリー・ハーウッドは、イギリスBBC研究所のD・E・L・シヨーターを中心とする研究開発チームのメンバーとしてスピーカーの研究に従事していたエンジニアであった。BBC研究所は、測定と聴感を精密に組み合わせることでスピーカー評価の方法論を確立したことで知られ、振動板素材にベクストレーン、ポリプロピレンといった新素材を積極的に採用したユニットの技術革新を進めながら、

BBCモニターと呼ばれるBBCのリファレンス・スピーカーの数々の体系を作り上げたことで知られる。シヨーターの後継者となったハーウッドは、そのBBCモニターの研究、設計の中心的人物であった。

**ハーベス社の将来をBBC
 時代の愛弟子アラン・シヨ
 ーに託して引退**

ハーベス・アコースティクス社が創設されたのは1977年、Monitor HLが日本に最初に輸入されたのは、その翌年の1978年であった。Monitor HLはその後数年改良の手が加えられて、Monitor HL Mk IVまで発展した。その頃、ハーベス社に大きな変革が起きていた。ハーベス社の創業者ダッドリー・ハーウッドがハーベス社の社長の座から退き、BBC時代の愛弟子だった若きスピーカー設計者アラン・A・シヨーに会社の経営を任せて引退したのである。1987年のことであった。シヨーは、ハーウッドの緻密な技術やセンス、スピーカーへの愛情とその表現手法を学びながら、経営上の手腕を発揮し、ロンドンの南の美しい住宅地ハイワーズ・ヒースに工場を新築し、新しい環境の中で初めてのモデルを完成した。その名がHL Compact。1988年であった。そして、翌年に登場したのが、HL5であった。ハーベス社伝統の格調

の高い音に、暖かみを加えたHL CompactやHL5（ハーベス社のスピーカーにはHLがついているが、ハーベス・ラウドスピーカーの頭文字。ここにもハーウッドの自分のスピーカーに対する誇りと自信が表れている）の音に、ハーウッドは嬉しさのあまり号泣したと伝えられる。ハーウッドがBBC時代から手掛けてきたBBCモニターの名器LS3/5Aの音をそのまま継承した「ハーベスの音」を、HL CompactやHL5から聴いたからである。

**「ハーベスの音」Super
 HL5を完成**

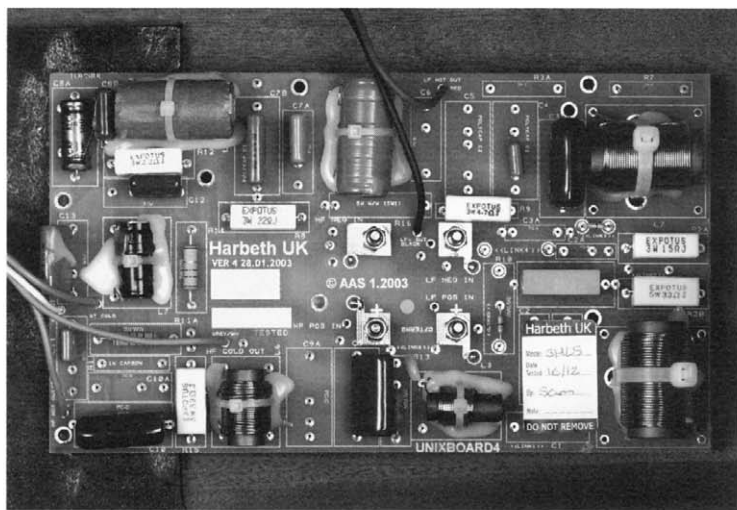
「ハーベスの音」の未来を託されたアラン・A・シヨーは、師の手法を受け継ぐと同時に、近い将来に迫っていた新しいデジタル時代の到来を予見し、新しいスピーカー像の確立と、そのスピーカー像を製品化するための技術的ノウハウの研究を重ねていた。こうして完成したのがSuper HL5であった。Super HL5に採用されたのは、スーパー・チューンド・ストラクチャーという考え方であった。素材の質量とコンプライアンスの精妙なチューニングによって中音域における不要共振を素材から除去し、極く薄い素材が音のエネルギに俊敏に反応できるようにコンピューター解析でチューニングしていくテクニックで、このスーパー・チューンド・ストラクチャー

は、内容積が50ℓのSuper HL5のエンクロージャにおいても、とくに低周波帯域で呼吸するかのように動作する、木製の楽器に極めて近い状態の実現に成功しており、ゆとりのある再現性と3ウェイのバランスのよい再現性の主な要因になっている。

Super HL5に新開発のスーパー・トワイター

を初めて採用

Super HL5の第2の改良点、というより最大の特徴は、HLファミリィで初めてスーパー・トワイターが採用されたことだ。2ウェイで構成されたHL5の高域のさらなる拡大を図るため、チタン・ダイアフラムを採用した極めて軽量な20mm口径のハードドーム型スーパー・トワイターに、さらにネオジウム・マグネットによる強力な磁気回路を使用し、10kHz以上の高域を受け持たせ、Super HL5に緻密な分解能、空気感、広がり感を向上させることに成功した。改善されたのは高域だけではない。この高域のスムーズな拡大で、中高域低音域もタイトに整えることができ、とくにCDのゆとりのある再生に目を見張る成果があったのである。



Harbeth UKの刻印があるSuper HL5のLCネットワーク

10kHz以下の周波数帯域を受け持つユニットには、25mm口径アルミニウム・ハードドーム型が採用された。高熱時には音崩れを起こさないよう最適な性能が維持されるフ

エロフルード・クーリング処理を施し、デジタルソースに対応するよう配慮された。

3.5kHz以下の中低域を受け持つドライバユニットのダイアフラム、ラジアルコーンは、ハーベスが1990年代から素材メーカーや大学の研究室との技術交流の成果で完成したダイアフラムであった。

「ハーベスの音」が家が家に来て以来Super HL5と対面している時間が楽しくなった

デジタル時代に対応した新技術がふんだんに導入されたSuper HL5が、わが家のリスニングルームに運び込まれてから、もう1カ月が経っただろうか。Super HL5がわが家に運び込まれて以来、いろいろな意味で筆者がそのSuper HL5と対面している時間が楽しくなった。もちろん、音質が気に入って、新しいCDやDVD-A、SACDを聴くのが楽しくなったことがその最大の要因だが、大きさに限界があるわれわれのリスニングルームにセットするのにエンクロージャの容積が大き過ぎず、小さ過ぎることもなく、大きさが適度であることもその要因の一つ、しかも、エンクロージャのチェリー仕上げのデザイン、塗装が美しいことも大いに気に入った要因の一つだ。Super HL5の

音質が気に入ってすっかりはまってしまい、本誌編集部の人に、「僕のバイトンメジャーと交換しましょうか」とうっかり言ってしまったが、半分は本気。きめの細かな、美しい音質で、クラシック音楽を聴くには最高、といまでもSuper HL5と交換してもよいと半分本気で思っているほどだ。

ビバルディの室内協奏曲のCDがビバルディの楽しさを満喫させてくれた

試聴のために使用したCDは、ロリン・マゼールがクリーヴランド管弦楽団を指揮したストラビンスキーのバレエ「春の祭典」のテラークの驚異のデジタル録音などであったが、最も数多い回数聴いたのは、カメラータ・ケルンが演奏した「ビバルディ／室内協奏曲集・第1集」のドイツ・ハルモニア・ムンディ盤。筆者はビバルディの協奏曲の愛好者だが、室内協奏曲はビバルディが確立したという通常の協奏曲とは異なる。このCDで演奏されている室内協奏曲を、通常の協奏曲風に言い換えると、第1曲がブロックフレーテ、オーボエ、バイオリン、ファゴットと通奏低音のための協奏曲、第2曲がフラウト・トラヴェルソ、オーボエ、ヴァイオリン、ファゴットと通奏低音のための協奏曲と言え換えることができるが、室内協奏曲は、ソロ楽器すべてが平等に扱われ、そうしたソロ楽器群



入力端子はネットワークに直結構造

の創造性が平等に分け与えられており、全曲すべてでソコ楽器の美しい旋律が聴かれ、ソコ楽器の掛け合いが想像もしなかつたほど美しい音色の交錯をくりひろげる。

ビバルディが残した室内協奏曲の数は極く少なく、録音されたCD全部を集めても10枚にならない。室内協奏曲はどんな曲かを分かつていただくのに紙数がかかってしまったが、これらの室内協奏曲で展開される旋律はビバルディならではの美しさ、それらのソコ楽器の音色もビバルディならではの美しさ。ハーベスのSuper HL5は、それらの楽器の音を鮮やかに分解し、透明で、つやっばく、目も覚めるような美しい音色を自然に聴かせてくれたのだ。それにしてもなんと美しく、素晴らしい音だろうか。Super HL5は、ビバルディの作品は。

このSuper HL5が素晴らしい音を聴かせた要因の半分はエンジニアリングが完了していたためだ

ここで、先月号でも述べたが、このSuper HL5の場合のエンジニアリングについて触れておかなければならない。このSuper HL5の音質が素晴らしいかった要因の半分は、すでにエンジニアリングが完了していたことだ。国産スピーカーの新製品が発売される時期になると、各社の担当者が新製品をわが家に運んで、聴かせてくれたものだが、それらの中に予想より音質が悪かつたのが半分。その半分は、エンジニアリングを十分に落させてあるのですか、と聞くと、担当者のほとんどは、まだですと答える。そこで、聴かせていただくのはありがたいのですが、エンジニアリングを十分に落させてから聴かせていたかないと、評価が悪くなるので損ですよと教えてあげたものであった。エンジニアリングを十分に落させてないと、売り上げにも影響するのである。

いよいよSuper HL5で広帯域メディアのSACD、DVD-Aを聴く

オーディオのプログラムソースにSACDやDVD-Aのような広帯域メディアが占める割合が多くなると、スピーカーにも広帯域化が要求される。Super HL5のカタログを見ると、周波数特性として40 Hz〜24 kHz(±3 dB)と表示されている。SACDの広告を見ると、よく100 kHzの高音域まで録音されていると記されていることから、100 kHz

Hzの音楽信号まで録音されていると思っ
ている人が多い。筆者はアメリカのサウンド・テクノロジーが開発したスベアナソフトを、自作の高性能パソコンに装備した、100 kHzまで測定できるスペアナを愛用しており、毎月発売されるSACDに高音域の音楽情報はどれほどの周波数まで記録されているかを測定しているが、最近測定したSACDで最も周波数が高い高音域まで音楽情報が記録されていたのは、ウィーン生まれの指揮者ジークハルトが首席指揮者を務めるアーネム・フィルハーモニー管弦楽団を指揮したマラー／交響曲第6番「悲劇的」のエクストン盤であった。その測定グラフを見ると、第1楽章の場合、高調波成分が最も高い周波数まで達していたのは50 kHz。

デンオンが録音したDVD-Aの中に、中野振一郎がチェンバロを弾いたパツハのフランス組曲第5番で最高の周波数が60 kHzまで達していた例があり、これが最高記録であった(デンオンの「オーディオ・チェックCD/2004スベシャル・リファレンス・エディション」の中に収録されている)。チェンバロのような特殊な楽器や、オーケストラの中でもシンバルが近接マイクで収録された特殊な例を除くと、SACDやDVD-Aで周波数が高い音が測定されるのは、せいぜい50 kHz。SACDに100 kHzの高音域まで録音できることは否定しな

いが、われわれが普段聴いている楽器には、特殊な場合を除いて、せいぜい50 kHzまでしか高調波成分は含まれていないのだ。

Super HL5は「悲劇的」の広帯域を素すところなく堪能させてくれた

SACDには100 kHzまで録音できるそうだから、100 kHzまで再生できるスピーカーが欲しいと考えるのはやめよう。仮に100 kHzまで収録されているSACDがあつて、そのSACDを再生したなら、SACDプレーヤーの回路や、スピーカーのボイスコイルは焼け焦げてしまつたらう。Super HL5の25 kHz(±3 dB)という意味を考えていただきたいのだ。筆者は、Super HL5で、ジークハルトが指揮したマラーの交響曲「悲劇的」を何回聴いたことだろうか。ウィーン交響楽団でチェロ奏者として活躍し、代役で指揮台に立つようになつて指揮者に転向した幸運な人で、指揮に定評があるジークハルトはアーネム・フィルを朗々と歌い上げてスケール感が大きく、色彩感の豊かなサウンドをパワフルに展開。CDも優秀録音だが、CDとは明らかに異なる広帯域で再生され、SACDの広帯域を堪能させてくれたのである。